



若あゆ



なすことによって学ぶ

校長 船田 敦史

岸町小学校に着任してから、一か月余りが過ぎました。この間、代表委員会によるあいさつ運動や音楽朝会、きらめきタイム（縦割り清掃活動）など、様々な教育活動に触れる機会がありました。どの活動でも、高学年の児童がリーダーシップを発揮し、下学年の児童を支える姿が見られます。子どもたちが日々の学校生活の中で、多くのことを学び、着実に成長していることを実感しています。

先日には、6年生の修学旅行に引率者として同行しました。出発にあたり、安全に気を付けることに加えて、「気配りを心がけてほしい」と子どもたちに話しました。自分にとっても周りの人にとっても気持ちよく過ごせるよう、相手のことを考えて行動してほしいという願いを込めたものです。

その思いがどの程度伝わったのかは分かりません。しかし、旅行中には仲間を気遣い、自然に手を差し伸べる姿を数多く目にしました。また、時間を意識して行動したり、話を聞く際には話し手に体を向けて静かに耳を傾けたりする姿も見られました。

こうした姿は、一朝一夕に身に付くものではありません。これまでの学校生活や様々な体験を通して学び、少しずつ身に付けてきた力なのだと思います。

一方で、旅行中には担任等から指導を受ける場面もありました。その際、室長や生活班長を中心に、「自分たちはどうすべきか」を話し合い、自ら改善策を考えて実行する姿が見られました。そして、その後はさらにより行動へとつながっていきました。

私は、その姿に子どもたちの成長の本質を見たように感じました。

子どもたちは、教師から教えられるだけで成長するものではありません。自分で考え、仲間と相談し、実際に行動する中で学びを深めていきます。そこには成功もあれば失敗もあります。しかし、うまくいかなかった経験を振り返り、「次はどうすればいいのか」を考えて再び挑戦する。その繰り返しこそが、子どもたちを大きく成長させるのではないのでしょうか。

小学校学習指導要領解説「特別活動編」では、児童の自主的・実践的な態度を育てるためには、大人が過度に先回りして援助するのではなく、必要に応じて支援しながら温かく見守ることが大切であると示されています。そして、その根底には「なすことによって学ぶ」という考え方があります。実際に行動し、その結果を振り返り、次の行動に生かしていくことが、子どもたちの確かな成長につながるという考えです。

修学旅行で見た6年生の姿は、まさに「なすことによって学ぶ」ことの大切さを示していました。

私たち大人は、子どもたちが失敗しないよう環境を整えることも必要です。しかし、それ以上に大切なのは、子どもたち自身が考え、判断し、行動する機会を保障することだと考えています。子どもたちを信じて任せ、必要なときには適切に支える。そのような関わりを大切にしながら、これからも子どもたちが様々な挑戦を通して学び、成長できる学校づくりを進めてまいります。